

研修、視察等報告書

(政進クラブ 内田卓実)

≪研修、視察日程≫

視察月日	研修先	視察施設	研修内容
令和 8 年 5 月 12 日 (火)	鳥取市役所	鳥取市役所南庁舎 1 階	妊娠出産包括支援モデル事業 助産師による産前産後ケアに ついて
令和 8 年 5 月 13 日 (水) AM	JA 尾道総合病院	JA 尾道総合病院会議 室	尾道方式「膵臓がん早期発見 プロジェクト」について

1, 妊娠出産包括支援モデル事業について

○ 視察目的

助産師による産前産後のケア、保健師、保育士等による子育て家庭の支援について先進的な取り組み事例等を視察する。

○ 考察

鳥取市では鳥取次世代育成行動計画を策定し「子供、親、地域が輝く子育て応援都市とっとり」を基本理念とし、市全域で子供を産み育てやすい環境を整えることにより子育てを強力に応援する都市を目指して、基本目標を掲げ、基本政策を定め妊産婦相談、養育相談、支援、こどもの発達相談を行いながら自動虐待の未然防止に取り組んでおられる。産前、産後サポート事業では、身近に相談できる人がいないことから、悩みの相談や育児のノウハウを習得できるよう産前、産後サポートによる支援を受ける事が必要と認められる妊産婦さんに対し、保健師、助産師、保育士、臨床心理士等により、子供の発達、養育等についての相談支援を電話、訪問、面談等により行っておられる。産前産後の不安であり悩みなどを相談できる人がいない妊産婦さんのサポートはもとよりであるが行政の主導のもと、まち全体で出産、子育ての応援体制が整備されているように感じられました。出産時だけでなく産前産後のサポートの充実が子育て世代の安心につながっていくと思いました。安来市では今、産科医がないため産前産後のケアは安心して産み育てるうえで母子ともに重要であります。家族構成も様々であり悩みや困りごとその人、家庭それぞれだと思います。いろんな場面での相談や、援助を受けられることで産前産後の援助が受けられるような体制を構築していくことが安心して産み育てられるまち安来市に繋がっていくと思いました。

2、尾道方式；膵臓早期診断モデルについて

○視察目的

尾道市医師会では2007年から「膵臓がん早期診断プロジェクト」を発足され、中核病院と開業医が一体となってこのプロジェクトを推進されている、この取り組みを視察する。

○ 考察

膵臓については症状がない、発見しにくいなどの理由で診断された時点では手遅れというケースが依然として多い状況です。尾道市医師会では2007年から「膵臓がん早期診断プロジェクト」を発足され、中核病院と開業医が一体となってこのプロジェクトを推進された結果、尾道市の膵臓患者の5年生存率は全国平均の3倍となる20%を達成されています。プロジェクトの中には医師会、行政も参加して役割分担も明確に分けてあり、地域での連携システムも構築されている。取り組みの中で行政の支援として、特定検診受診者に対して、がん検診の項目に安価な価格で腹部エコー検査を取り入れておられた。特定検診受診者の増加を含めた検診のレベル向上にも貢献しているものと思います。このプロジェクトを通じて、市民の皆さんの健康推進の一つになっていると思います。安来市においても特定検診は、市民の皆さんの健康維持に大切なものであり、受診率を上げていくためにも癌のオプションでの検診を増やしていくことは必要であると考えます。遺伝また、生活習慣など個人で心配されることも様々であり、今は早い段階で発見されれば癌は治らない病気ではありません。安来市でもがんのオプション検査が安価で選択項目を増やす取り組みを進めていけたらと考えます。